

問1 北海道の中西部を流れる石狩川の下流域には、かつて大規模な泥炭地（湿地帯）が広がっていましたが、土地改良が進んだことで現在は日本有数の稲作地帯となっています。石狩川の河口が面している海域と、その流域に広がる平野の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2019年 岡山公立入試 類似）

1. 日本海と石狩平野 2. 太平洋と十勝平野 3. オホーツク海と北見盆地 4. 太平洋と根釧台地

問2 北海道には古くから独自の文化を築いてきた先住民族が居住しており、現在の札幌をはじめとする道内の多くの地名は彼らの言葉に由来しています。この民族を何と呼びますか。（2019年 静岡公立入試 類似）

1. アイヌ民族 2. 琉球民族 3. 大和民族 4. ウィルタ民族

問3 北海道の南東部に位置する十勝平野では、その広大な土地と冷涼な気候を活かした大規模な農業が行われています。この地域における農業の特色を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2022年 和歌山公立入試 類似）

1. 輪作を中心とした大規模な畑作が行われ、あわせて酪農も盛んである。
2. 豊かな水資源を利用した大規模な稲作が行われ、米の単作地帯となっている。
3. 大消費地に近い立地を活かして、ビニールハウスを用いた施設園芸農業が行われている。
4. 温暖な気候を利用して、冬でもレタスなどの野菜を栽培する促成栽培が行われている。

問4 人口約526万人を抱える北海道では、道庁所在地の人口が約197万人に達するなど都市部への人口集中が見られる一方で、広大な土地や気候特性を活かした新たな産業の立地が進んでいます。近年、北海道において企業の膨大な情報を管理するデータセンターの集積が進んでいる理由として、自然環境の面から説明したものとして最も適切なものを選びなさい。（2021年 東京都公立入試 類似）

1. 年間を通じて気温が低くサーバーの冷却コストを抑えられる点や、地震等の影響を受けにくい安定した地盤があるため
2. 梅雨の影響を受けず夏が乾燥しており、広大な丘陵地帯を太陽光発電の適地として活用しやすいため
3. 周辺を流れる対馬海流の影響で冬も温暖であり、精密機器の故障の原因となる結露を防ぐのに適しているため
4. シラスと呼ばれる厚い火山灰層に覆われた台地が広がっており、大規模な施設の建設に必要な強固な土台が得やすいため

問5 北海道ではパルプ・紙・紙加工品製造業が地域の主要な産業の一つとなっています。この工業が北海道で発達した背景として、最も適切な理由を選びなさい。（2021年 京都公立入試 類似）

1. 原料となる豊かな森林資源が豊富に存在するため
2. 大規模な消費地である東京圏に隣接しているため
3. 海外から輸入した木材チップの加工に特化した貿易港があるため
4. 内陸部に高度な技術を持つ機械部品工場が集積しているため

問6 北海道の石狩平野などでは、かつて枯れた植物が十分に分解されずに積み重なった、水分が多く農業に不向きな「泥炭地」が広がっていました。この土地で稲作などを可能にするため、他の場所から質の異なる土を運び入れて土壌の性質を改善する土地改良の手法を何といいますか。（2022年 三重公立入試 類似）

1. 客土 2. 干拓 3. 段々畑の造成 4. 輪作

問7 北海道東部の太平洋沿岸地域において、夏の気候に大きな影響を与える「海霧」の要因となる、海流の名称と季節風の向きの組み合わせとして正しいものはどれか。（2024年 石川公立入試 類似）

1. 親潮（千島海流）と南東の季節風 2. 黒潮（日本海流）と北西の季節風 3. 親潮（千島海流）と北東の季節風 4. 対馬海流と南東の季節風

問8 1997年に施行された「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律（アイヌ文化振興法）」が、それ以前の政策から大きく転換した点について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2023年 長野県公立入試 類似）

1. アイヌの人々を独自の文化を持つ集団として認め、伝統や言語の振興を支援する方針に転換した。
2. アイヌの人々の居住地を北海道に限定し、伝統的な狩猟や漁業の権利のみを保障する方針に転換した。
3. アイヌの人々を日本人に同化させることを目的とし、日本語教育を義務づける方針に転換した。
4. アイヌの人々に対して金銭的な補償を行うことで、すべての歴史的課題を解決する方針に転換した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 日本海と石狩平野	石狩川は、大雪山系に源を発し、北海道中央部を北西へと流れ、日本海に注ぐ一級河川です。その下流域には石狩平野が広がっています。かつては水はけの悪い泥炭地が広がり、農作物の栽培には不向きな土地でしたが、大規模な排水事業や客土（他の場所から良質な土を運ぶこと）などの土地改良が行われた結果、現在では道内最大の稲作地帯となっています。
問2	答え 1 アイヌ民族	アイヌ民族は北海道の先住民族であり、自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の精神文化や言語を持っています。北海道にある多くの地名は、彼らが地形や動植物の特徴を表現した言葉が語源となっており、例えば札幌（サッポロ）は「乾いた大きな川」を意味するアイヌ語の『サツ・ポロ・ベツ』に由来しています。
問3	答え 1 輪作を中心とした大規模な畑作が行われ、あわせて酪農も盛んである。	北海道の十勝平野は、日本を代表する畑作地帯です。1戸あたりの耕地面積が非常に広く、大型機械を導入した大規模な農業が展開されています。ジャガイモ（馬鈴薯）、てんさい（ビート）、豆类、小麦などを組み合わせた畑作のほか、乳牛を飼育して生乳を生産する酪農も組み合わされているのが大きな特徴です。
問4	答え 1 年間を通じて気温が低くサーバーの冷却コストを抑えられる点や、地震等の影響を受けにくい安定した地盤があるため	データセンターは、稼働する大量のコンピューターが発する熱を効率よく冷却する必要があります。北海道の寒冷な気候を利用すれば外気による冷却が可能のため、電気代などの維持費を削減できる利点があります。また、データの損失を防ぐために自然災害のリスクが低い場所が選ばれる傾向にあり、北海道の安定した地盤も立地の決め手となっています。なお、シラス台地は九州南部の特徴であり、北海道の土壌とは異なります。
問5	答え 1 原料となる豊かな森林資源が豊富に存在するため	パルプ・紙・紙加工品製造業は、木材を原料とするため、森林資源が豊富な地域で発達しやすいという特性があります。北海道は日本全体の森林面積の多くを占めており、この豊かな森林資源を背景に製紙業などが地域の主要産業へと成長しました。
問6	答え 1 客土	石狩平野などに広がる泥炭地は、水はけが悪く地盤も軟弱であったため、そのままでは稲作に適しませんでした。そこで、他の場所から肥えた土や粘土質の土を運び込む「客土」という大規模な土地改良が行われました。この努力によって、北海道は日本有数の稲作地帯へと発展しました。干拓は海や湖を仕切って水を出し陸地化すること、輪作は同じ土地で時期をずらして異なる農作物を育てることを指します。
問7	答え 1 親潮（千島海流）と南東の季節風	北海道東部の太平洋沿岸では、夏に南東から湿った空気が流れ込みますが、この空気が千島列島付近から南下してくる寒流の「親潮（千島海流）」の影響を受けることで冷やされ、濃い霧が発生します。この現象は、この地域の夏の気温が上がりにくい一因ともなっており、農作物の生育に影響を与える「冷害」の原因になることもあります。
問8	答え 1 アイヌの人々を独自の文化を持つ集団として認め、伝統や言語の振興を支援する方針に転換した。	それまでの「北海道旧土人保護法」は、アイヌの人々を日本人の中に同化させることを目指した法律であり、アイヌ独自の文化や言語は否定される傾向にありました。アイヌ文化振興法の制定は、そうした同化政策から、多文化共生社会の実現に向けて、アイヌ独自の民族的誇りや文化的多様性を尊重する方針へと舵を切った重要な転換点となりました。